

平成27年度

学校関係者評価報告書

岡山自動車大学校

平成28年 8月 30日

岡山自動車大学校
校長 原田公德 殿

学校関係者評価委員会
委員長 山本 茂

学校関係者評価報告書

平成27年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- 山本 茂 (おかやま山陽高等学校 自動車科部長)
川上 薫 (一般社団法人 岡山県自動車整備振興会 事業部 課長)
松岡 正志 (岡山ダイハツ販売株式会社 総務部採用グループ課長)
小椋 竜太 (岡山ダイハツ販売株式会社 吉備路店 主任)

2 学校関係者評価委員会に開催状況

第1回委員会 平成28年8月23日(会場 岡山自動車大学校 会議室)

3 平成27年度学校関係者評価報告

学校関係者評価委員からの主な意見

(1)教育理念・目的・人材育成像

教育理念、教育目標、人材育成像など具体的に定められており、分かりやすくなっている。
スローガンで今年から新しく保護者信頼度の向上が上げられている。

(2)学校運営

組織運営については問題ないと思われる。
「情報システム化による業務の効率化」については、教員間の連絡方法についてメールの
閲覧板機能(メールを誰がいつ見たかチェックでき、コメントも書けるので発信者側からの
確認が容易である)なども活用してはどうか。
職員室が複数に分かれていることで、教員間の連絡に問題はないか。

(3)教育活動

教育到達レベルは明確化されているか。
教員の研究授業ができていない点は今後取り組んでもらいたい。
要件を備えた教員の確保はできていると評価できる。

(4)教育成果

就職率については他校と比較しても十分評価できるのでは。
1級不合格者への卒業後の指導は適切か。

(5) 学生支援

学生の相談体制について、スクールカウンセラーの導入が難しいのであれば、外部の相談窓口を設けて紹介するなどの方法もある。検討してはどうか。

(6) 教育環境

適切である。

(7) 学生の受入れ募集

学納金については妥当な金額となっているか。他校との比較・検討も必要ではないか。

(8) 財務

学校法人で監査ができていますので間違いはないと思われる。

(9) 法令等の遵守

個人情報漏洩防止への取組は徹底していく必要がある。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校の教育施設を活用した社会貢献については、専門性の高い設備であるため、一般の人が使用するというのは難しいのではないかと。また、教育目的により補助金を受けた設備を本来の目的以外に使用することは出来ないのではないかと。一般の人が校内に入ることによって学生の安全性に問題はないかと。企業では、ゴミ拾いや、店舗に市場を設置しての農家支援などに取り組んでいる。

総括

全体としては特に問題はなく、適切に評価されている。
昨年と比較するとかなり厳しく評価点をつけている。

評価するだけでは意味がない。出来るもの、出来ないものがあるが、きちんと見極め
今後につなげてもらいたい。

評価して終わりにせず、具体的な期日を決めて、目標をもって取り組んでもらいたい。
総合的な評価の「ぶれない」姿勢は大切である。学校の持ち味は是非継続してもらいたい。

少子化の中での募集活動は厳しいと思われるが、「よい人材を育てる」ということを第一に
お願いしたい。

施設見学によりシャシーダイナモメーターなどの最新の設備が整備されていることが分かった。

学校関係者評価委員会からの意見をうけて学校の今後の取組み・改善

(1) 教育理念・目的・人材育成像

昨年度の自己評価と比較すると、本校の教育に合わせたより具体的な内容に変更している点分かり易いとの評価をいただいた。今後もより分かり易く見直していく。スローガンについては、以前は保護者満足度の向上をあげていたが、変更した。

(2) 学校運営

教員間の連絡、連携についての指摘であるが、毎朝の職員会議において全教職員が顔を合わせて業務確認をしており、また問題があればその都度、集まって話し合うという姿勢で取り組んでいる。今後も教員間の連絡をメールでとは考えておらず、互いに常に顔を合わせて話し合うよう努力していく。職員室は複数であるが、東西棟も放送設備及び内線電話は共通しており連絡は容易である。

(3) 教育活動

成績評価については各教員によって重点を置く項目に個性があり配点に差が生じる。試験は平均点が70点となるように作成しているが、明確化するには難しい面がある。教員間の情報共有化をすすめ、評価にずれが出ないように取り組んでいく。

(4) 学修成果

就職率は100%であるが、学生全員が第一志望の企業に合格できていない。進路指導では、もっと出来ることはないか常に見直しながら取り組んでいく必要がある。1級不合格者への対応としては、「岡自大塾」として週1回登校し国家試験対策に取り組んでいる。国家試験合格への意識付けの強化が必要である。

(5) 学生支援

現状では担任が教育相談をしている。理想はスクールカウンセラーの導入であるが学校の規模から考えると難しい。近年コミュニケーションが苦手という学生も多く、外部への委託なども含め、相談窓口のあり方を考えていきたい。

(6) 教育環境

創立30周年の事業として導入したシャシーダイナモーターを有効に活用出来るよう計画していく。

(7) 学生の受入れ募集

学納金については、全国の自動車大学校の金額と比較しても妥当である。学生数を確保するためだけに安易に留学生をいれることは考えていない。入試を行い、整備士を目指せる学生を確保できるよう努力していく。

(8) 財務

適切な運営に努める。HPで情報公開している。

(9) 法令等の遵守

個人情報漏洩防止への取り組みは重要である。教員への意識付けを徹底していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校内へ不特定の人が入るということには慎重にならざるを得ない。現在行っている、赤十字の集団献血への協力は継続していく。校外実習場を労働基準協会の講習用に貸し出しており、地域への貢献になっている。

総括

学校関係者委員からの評価は良好であり、本校の自己評価は適切であると考えられる。

今回の委員会では、教員間の情報の共有化の重要性、教育到達レベル及び評価基準の明確化の必要性、国家試験不合格者への事後指導の取り組み、学生の相談窓口の検討、社会貢献のあり方など客観的な視点から貴重なご意見をいただき、さらなる改善へむけて努力していきたい。

本校の教育内容に沿った自己評価の項目を取り入れていくことで、より具体的な評価になるよう見直していきたい。